

令和2年自己評価書

令和3年3月11日

真庭市立久世保育園

園長 川崎美名子 印

1. 久世保育園の教育保育目標

児童福祉法に基づき保育を必要とするすべての子どもに対し、安心・安全な生活の場を保証し、保護者と共に子どもの最善の利益を考慮した保育を行う

- ・いきいきと意欲をもった子ども
- ・自分で考えて行動する子ども
- ・友達と共に育ち合う子ども

2. 本年度の重点目標

居心地の良い環境の中で育ち合う保育

- ・子どもが健康、安全で情緒の安定した生活が出来る環境を用意し、自己を十分に発揮しながら活動できるようにすることにより、健全な心身の発達を図る
- ・養護と教育が一体となって、豊かな人間性を持った子どもを育成する
- ・地域による子育て支援のために、乳幼児などの保育に関する相談に応じ、助言するなど社会的役割を果たす

今年度研究主題

主体的に活動できる子どもをめざして
～子どもの「やる気」が育つ保育づくり～

3. 園評価の個別評価

評価指標	考 察	園総合評価
教育課程・指導計画	全体的な計画を遊びや生活に位置づけて計画の立案、実践及び再構成が概ね達成できた。	3
行事	コロナ禍で回数や中止になった行事もあるが、工夫や保護者の協力により行事のねらいを活かし実施した。	3
組織・運営	昨年度の課題を改善し、早めの話し合いを行い職員間で共通理解のもと、連携を図り運営することができた。	4
学級経営	研究テーマに沿った保育実践に努めた。子ども理解に努め、子どもの「やる気」を引き出す援助や環境構成を行った。	4
特別支援教育	支援の必要な家庭については各種専門機関と連携を取り、個々の状態に応じた指導計画のもと保育を行った。	3
安全管理・保健指導	事故や大きな怪我もなく、安全教育に関しては目標を達成することができた。体調の変化や感染症の流行状況に気を配り、対応した。	3
研修（資質向上）	コロナ禍のため、限られた研修参加ではあったが、個々が専門的知識を高めるように努めている。	3
情報提供・保護者・地域との連携	各種便り、掲示板、ホワイトボード、HP等を使って分かりやすく園の様子を伝える工夫ができた。	4
小学校との接続・連携	計画的に小学校との交流活動は行っているが、子どもの育ちを共有し、保育教育課程の接続まではできていない点が課題である。	3
子育て支援	保護者からの相談・連絡に対して素早く適切な対応をした。	4
食育の推進（給食）	食物アレルギーに対して、適切な対応を行い、日々安全な給食を提供した。調理担当者は保育士、園児とのコミュニケーションを図る努力を行い、信頼関係の構築に努めた。	4

食事の提供（調理）	各種マニュアルに沿って適切に処理・調理を行った。個人差を考慮し、保育士と連携を取りながら調理形態にも配慮した。	4
-----------	---	---

4. その他必要な評価

評価指標	考 察	園総合評価
いきいきと意欲をもった 子どもの育成	子どもの「やる気」や主体性を引き出すように年齢に合わせた取り組みを行った。子どもや保護者との信頼関係を築き、子ども達が「楽しい」と感じられる保育の実施に努めた。	4
自分で考えて主体的に行 動する子どもの育成	子ども理解に努め、寄り添うことで子ども達から「やりたい」を発信するようになった。	3

5. 本年度の重点目標及び総合的な評価結果の考察等

<ul style="list-style-type: none"> ・環境や社会事情の変化に気を配り、子ども達が安心・安全に過ごせる様にいろいろな工夫、手立てを行った。研修（資質向上）については参加人数は少なかったが、園内の職員同士が他者のアドバイスや保育実践を参考にして保育力の向上に努めた。 ・給食の提供については保育士と調理担当者が、報告・連絡・相談を行い、しっかりと連携を取り、安心・安全な給食を提供した。また、コミュニケーションを図り、良好な人間関係の構築にも繋がった。 ・運営については早期に、各種会議を計画・開催し、会自体の運営を効率的に進め、共通理解を図ることができた。また、協力体制の強化にも繋がった。 ・工夫と職員の知恵を活かして意欲的に活動が楽しめるような保育実践や個性と能力を引き出し、子ども達に「やる気」が育つ援助を行った。 <p>今後も、子どもの発達に即した主体性や学びが実現できるように職員間で共通理解し、協力体制で取り組んでいきたい。</p>
--

6. 評価結果を受けての具体的改善方策等

- ・基本的な生活習慣や生活する力が身に付くように、個々の発達に応じた関わりや支援をするように努めているが、定着できていない園児も多い。園と家庭との連携が大切であり、引き続き、家庭と連携して生きる力を育む援助をしていきたい。
- ・特別支援教育については各種機関との連携をしっかりと図り、発達や個人差に合わせた援助ができるような体制を強化したい。
- ・安全管理については園舎・遊具の老朽化が進み、念入りな安全点検を継続する必要がある。
- ・職員の資質向上については、職員自身が「聞く」「伝える」を徹底し、子ども理解に努め、意欲をもって学び合う姿勢で園内研修を行い、共通理解する。
- ・小学校との接続・連携については、保育教育課程の接続まではできていない点が課題である。年間行事にとらわれず、園児の様子を実際に見てもらえるような職員同士の交流の場が持てるようにしていきたい。

(保護者アンケートの結果や園内職員で改善策を話し合ったことなど織り込んで記入する)

園評価基準

評価	基準	
4	80%以上の達成度	十分達成されている
3	60%以上80%未満の達成度	概ね達成されている
2	40%以上60%未満の達成度	取り組まれているが、成果が十分でない
1	40%未満の達成度	取り組みが不十分である